

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」

初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

【第65回】

「熱心な地域のスタッフに支えられて」

京都府京都市立福西小学校 校長 市場 良祐

<地域の状況>

京都市では、平成19～21年度の3年計画で放課後子ども教室（京都市では「放課後まなび教室」という名称で運営）を全市立小学校区に設置しました。放課後の児童に学習の習慣づけを図る「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」の充実を基本方針とし、「地域の子どもは地域で育む」という考えの下、地域・保護者・学生等数多くの方々の参画を得て運営されています。

本校では、平成19年度から放課後まなび教室の運営を開始し、今年度で6年目を迎えています。自主的な学びの力を充分発揮できていない子どもたちや、落ち着いて学ぶことが苦手な子どもたちが、熱心な地域スタッフとの温かい関わりの中で次第に目的意識を持って、学習や行動ができるように成長しています。こうしたスタッフとの心の交流のある放課後まなび教室が、子どもたちの豊かな心を育む大切な場の一つになっていることを実感しています。

○ 普段の活動（週5日実施）

月～金の放課後14：30～17：30（平成23年度登録児童数75名）

宿題・学習プリント、音読、読書、読み聞かせ 等

○ 特別な活動

おみこしづくり（毎年10月の小中連携による地域イベント「西陵文化まつり」で使用）

七夕飾り、牛乳パックを使った鉛筆立ての制作 等

○ 「やくそくごと」の徹底

入口の靴ならべ（自分だけでなく人の分も）、あいさつ、名札の着用、スタッフを先生と呼ぶ 等

○ 夏休みの活動（平成23年度状況）

10日間実施（1日2～3時間）

夏休みの宿題や課題の点検、整理。生活リズムを整えるための意識づけ 等

<成果>

子どもたちが地域の方々から大切にされていることを自覚することにより、安心して学校生活を送り、周りのことも考えられるように成長してきています。本校児童の自学自習の習慣化に向けた取組の一つとして、放課後まなび教室を通じた地域との連携を今後も大切にしていきたいと考えております。